



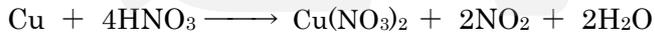
2017年度 近畿大学 推薦入学試験

I

問(1) (a) 3.7 (b) 1.7 (c) 12.0 (d) 4.7 (e) 4.4

問(2)

(a) 濃硝酸



(b) 亜硫酸水素ナトリウム



(c) 硫化鉄(II)



(d) ヨウ化ナトリウム



(e) 塩化亜鉛



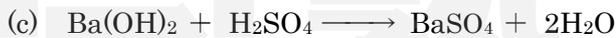
II

問(1) (a) 127.2 (または, 127.1)

(b) $2.67 \times 10^4 \text{ Pa}$

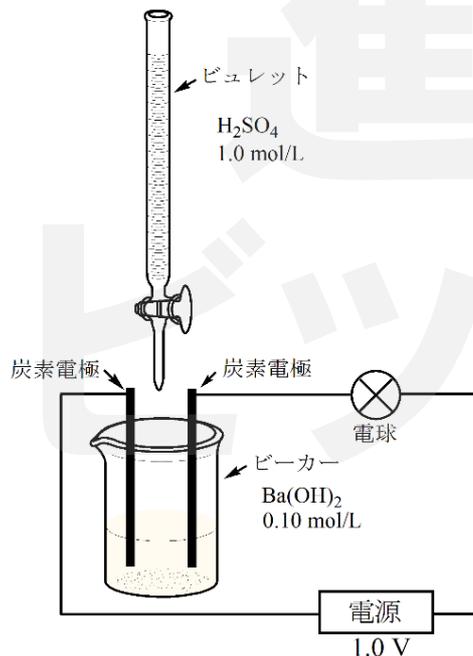
(c) $1.18 \times 10^4 \text{ kJmol}^{-1}$

問(2) (a) (b)



(d) 20 mL

(e) 滴定を開始してから中和点に達するまでは徐々に光が弱くなり、中和点を過ぎてさらに滴下していくと徐々に光が強くなる。

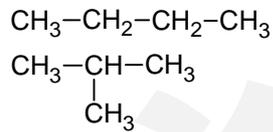


III

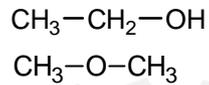
問(1)

- (a) (ア) 構造異性体 (イ) 立体異性体 (ウ) 幾何異性体 (または、シス・トランス異性体)
 (エ) 光学異性体 (オ) α -アミノ酸 (カ) L

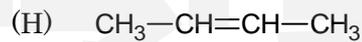
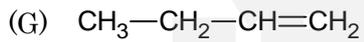
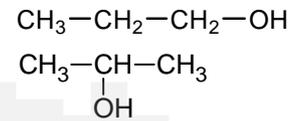
(b) (A)(B) (順不同)



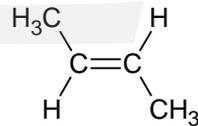
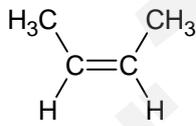
(C)(D) (順不同)



(E)(F) (順不同)

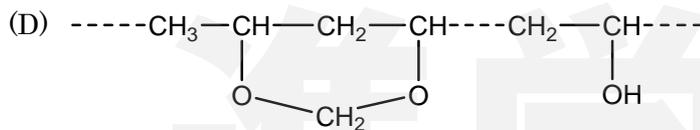
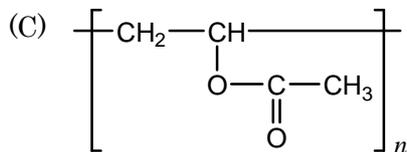
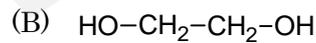
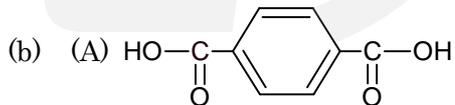


(I)(J) (順不同)



問(2)

- (a) (ア) 縮合 (イ) 付加 (ウ) けん化 (エ) 塩析 (オ) アセタール



(c) 33 個

2017年度 近畿大学 推薦入学試験

【 講 評 】

全体として易しい問題が多かった。高得点勝負であり、合格のためにはミスをせず確実に解答する必要がある。ビッグバン生ならば前期と夏期のレギュラー授業で推薦試験までに出題分野は十分に対策されているはずだ。

I. pH, 化学反応式	難易度： 標準
pH を求める問題も化学反応式を記述する問題も基本的なレベルであり、医学部を目指す受験生であれば当然解答できなければならない。ビッグバン生であれば、夏期 α と前期 γ のテキストで網羅されている分野である。	
II. 反応量計算, 電気分解, 滴定	難易度： 標準
反応量計算は典型的な問題ではないが近畿大学らしい出題と言える。電気分解では図を描かされる問題が出題されたため抵抗を感じた受験生もいただろうが、問題文の丁寧な指示通りに解答すれば何の問題もなかったはずだ。	
III. 脂肪族炭化水素, ビニロン	難易度： 易
脂肪族炭化水素は基礎レベルであり、易しかった。ビニロンについてもまた構造式と反応式が記載されているため易しい出題であった。ビッグバン生ならば前期 β のテキストで十分に学習している内容である。	